

四十歳を迎えた 26 期生の皆さんへ

今年度、40歳を迎えられた第26期卒業生【平成15(2003)年3月卒業】の皆さんに向けて、当時の担任団の先生方からメッセージをいただきました。

先生方には同窓会より連絡を取らせていただき、40歳になった皆さんに向けて、字数も内容も特に決めず、自由にメッセージを書いていただくよう、お願いをしました(柿澤先生については、ファックスで送っていただいたので、ご署名を転載させていただきます)。

皆さんそれぞれの高校時代、そして当時の先生方を思い出しながら、どうぞご覧ください。

ちなみに右の写真は、26期の皆さんが卒業の際に「卒業記念品」として学校に贈った、北棟外壁の太陽電池時計です。今も現役生徒の皆さんの役に立っています。



3年 1組 高橋 善弘先生

26期生の皆さん、お変わりありませんでしょうか？

この原稿を書きながら、皆さんと過ごした金井高校の三年間を懐かしく思い起こしています。今でも、東海道本線の下りに乗ると、大船駅の直前で、進行方向右に金井高校の校舎がチラッと見えることがあります。その時は、何とも言えないものが胸をよぎります。あの場所で、皆さんと一緒に時間を共有できたかと思うと、不思議な気持ちになります。そして、みなさんに「楽しい時間をありがとう」と、お礼を言いたくなります。(年齢をとって、感傷的になりましたかね？)

ところで、皆さんは40歳の節目を迎えられたそうで、おめでとうございます。

20、40、60、80歳は、区切りの年とも言われているようで。確かに、人生100年時代を20年ごとの区切ってみるのも、なにか意味がありそうです。この区切りで言えば、これからの20年間は「人生の中で一番の実りの時期」になるかと思えます。忙しい毎日が過ぎていくだけ、となってしまうかもしれませんが、それでも、大いに楽しんで、がんばってみてください。それと、健康にだけは注意してください。私たちは、体が資本です。

私も、横浜市内の県立高校で、週4日の非常勤講師として数学を教えています。つまり、20数年前のあなた達と同じ高校生と、何度目かの高校生活を楽しんでいることになります。こんな時間が1日でも長く続くように、がんばっていきたいと思っています。

また、どこかでお会いできる日を心待ちにしています。高橋善。

3年 2組 竹澤 安博先生

みんなが40歳になってしまったと聞き、じゃ俺の40歳は？と振り返る。俺の40歳は…実はちょうど金井高校に赴任した年なんです。とはいうものの、4月生まれの俺はすぐに41歳になりましたが…。

俺の40代は…一番近くで見ている君たちが知っていますよね。そんなことで、40歳になった今の君たちはどんな生活をしているのだろうと気になります。独りをエンジョイしている人、家庭ができた人、家族に囲まれている人などなど興味津々です。

ときどきですが金井高校を訪ねることがあります。変わらないですね～あの姿。26期生が知る姿で違うのは…グランドかな？ピロティーの下が空洞になっていた記憶があるけど直されたのか？みんなは覚えていますか？そうそう！体育準備室が体育館横の2Fにあったんじゃないかな？あれからしばらくして狭くなったので1Fへ移動したんですよ？って、こんな話をしているけど、俺の記憶は正しいかな？

取り留めの無くまとまりの無い話で申し訳ないです。

で、ここで俺の報告をしておきます。未だに陸上競技と関わっています。陸上競技の生徒だけではなく沢山の生徒と出会い、沢山のことを学ばせてもらいました。そして、今も学びの途中です。俺は毎年を重ねるけど、目の前にいる生徒はいつもいつも15歳～18歳。離れれば離れるほどに景色が違って見えてきます。君たちから見れば、そのようには見えなかったかも…。でもネ、本当に本当に沢山吸収させてもらいました。ありがとうございました。

もっともっとパワフルになった竹澤でした。

3年 3組 矢野 慎一先生

ご無沙汰しておりますが、お元気ですか。このたび、皆さんが無事に40歳を迎えられたということで、お祝い申し上げます。皆さんが金井を卒業してから20数年が経ち、それぞれ社会の中堅として頑張っておられることと思います。家庭でも職場でも、そろそろベテランの域に達しつつあるのではないのでしょうか。人生80年以上といわれる時代ですので、ようやく折り返し地点に到達したわけです。ここまで大変だったという方もいらっしゃると思いますが、いよいよこれから、色々なことができる年齢になります。どうか頑張って、今後の人生を稔りあるものにしてください。

さて、私が皆さんと金井での生活をともにしたのは、ちょうど40歳台の前半でした。自分で言うのもなんですが、まさに体力と気力が充実した脂ののった年代でした。金井で私が最も力を入れたのは、やはり歴史の授業でしたが、文化祭や合唱祭、東北修学旅行などの学校行事、そして剣道部も忘れられません。ふり返ってみると、私の教師人生の中で、最も楽しい時代だったのかもしれない。

その後、私は皆さんから少し遅れて金井を卒業し、2つの高校で働き、2018年3月に金井と同じ栄区内の高校で定年を迎えました。金井から定年までの約20年間もそれなりに楽しかったのですが、体力と気力は徐々に衰えてきましたので、金井ほどの満足感は得られなかったような気がします。定年後もそのままフルタイムで教師を続け、今も神奈川区の丘の上にある高校で働いています。剣道部の監督は続けていますが、やはり一番大切にしているのが歴史の授業で、高校生に、「歴史総合」という新しい歴史科目を教えています。私の教師人生も残りわずかとなりましたが、最後まで頑張りたいと思っています。どうか皆さんもお元気で過ごしてください。

3年 4組 柿澤 雅幸先生

何がきっかけだったかははっきりと思い出せないが、とにかく教職に就くことを意識しはじめたのは中学生の時であったことは確かだ。中学校でも高校でも国語の授業が楽しみで、既に鬼籍に入られた先生方のお名前、お話をしてくださるご様子が、今でも生き生きと思い出される。それらの記憶から、いかに多くのヒントを得、影響を受けてきたことか。

私が金井の26期生と出会ったのは、40代の後半、今思い返すと、気力、決断力、行動力等々それらの総合力が最も充実した時期であったと思う。そんな自分が皆に何かを渡すことができたのか、それは知る由もない。今年で70を迎え、48年間の教員生活に幕を引こうと決意した今、そんな思いが頭をかすめる。

人事を尽くせば意味のないことは無いはずだ。どうかお元気で。



3年 5組 渡邊 幸伸先生

「不惑」とはいうものの、働き盛りの40代、惑うことの多い年頃である。私が金井で過ごした40歳前後の4年間、当時は気力も体力も旺盛で、あれこれ惑いながらも授業や生徒に対し全力でぶつかっていった教員生活であった。あの頃の生徒が40歳になるのだと思うと感慨深いものがある。金井の校舎で君たちに出会い、君たちの夢や希望、喜びや悲しみ、挫折や再生に付き合ってきた。こうして文章を書いていると、あの頃の懐かしい姿がたくさん浮かんでくる。皆、どうしているだろう。夢は叶ったのだろうか。悩みは解決したのだろうか。障害は乗り越えたのだろうか。どんな人生を歩んでいるのだろうか。幸せであるだろうか。

私は5年前に定年退職し、小学校入学以来54年間通い続けた学校生活を終えた。今は毎日好きなことをして、残された人生を大切に過ごそうと思っている。

人生は一度きり。どうぞ皆さん、悔いのない人生を歩まれますよう。人生は、まだまだこれからである。

3年 6組 更科(松田) 富士子先生

26期の皆さん。お元気ですか。私は今、神奈川県の高校で美術の非常勤講師をしています。2年前に常勤職員を卒業し、今は週3日学校で教え、あとの4日は絵を描くなど、自由な時間を過ごしています。26期の皆さんが40歳を迎えるとのこと、昔で言えば2回目の成人ですね。どんな大人になったのでしょうか。数年前に同窓会で一度お会いした方々もいらっしゃるって、その節は幹事の方はじめ、お世話になりました。振り返ってみると、26期は自由、闊達で、学校行事も積極的でした。最後の文化祭でのクラス演劇「山田のおじさん」が忘れられません。金井高校には今も時々、外部団体の会で美術室を使わせて頂いています。転勤して20年以上たちますが、金井高校のたたずまいは昔と殆ど変わっておらず、訪れる度、母校のような暖かさに包まれます。いつか皆さんに金井高校で会うことができたらいいなあ、と思っていますので、幹事の皆さん、よろしくお願ひします。